

⊗



info

⊗

# オリンピックだ!ダビング10だ!

ここ数年、オリンピックやワールドカップが来るたびに売れるもの・・・  
 そう!! 薄型テレビですね! この時期はものすごい勢いで宣伝してきます。  
 そして終わるとものすごい値下がり競争が始まりますね(笑)  
 薄型テレビの所有者もだいぶ増えた今年が目玉はテレビ本体ではなく  
 “地デジ画質で録画できる高性能レコーダー”のようです。  
 そこで聞かれる【コピーワンス】や【ダビング10】というキーワード。  
 実は高性能レコーダーにとってはずごく重要な言葉なんですよ!!!  
 今回のTOP記事はダビング10について書いてみましょう!!

## コピーワンスとダビング10では大違い!!

簡単にいってしまうと「録画したものの複製をいくつまで作れるか?」と言う事です。  
 下の表にまとめてみたので良く見比べてみてください。

コピーワンス

地デジ画質のまま録画したものをDVDにできる回数は1回だけ  
 2枚目はDVDを作ると同時にレコーダーの中のデータを削除  
 アナログ画質でDVDやビデオカセットに録画する事は一切出来ない

ダビング10

地デジ画質のまま録画したものを録画できる回数は9回まで  
 10枚目のDVDを作ると同時にレコーダーの中のデータを削除  
 アナログ画質でDVDやビデオカセットに録画するのは何度でも可能

両方コピーを失敗してもカウントはされますので、  
 もしコピーワンス方式で失敗したら、大切な録画した  
 データのコピーはできなくなってしまいます。  
 「えー!!」って感じですよ!  
 なんでこうなったのかを少し書いてみましょう。

## コピーワンス⇒ダビング10への簡単な流れ

元々は著作権団体の人たちの強い要望で地デジ放送の黎明期であった  
 2004年4月より全ての地デジ対応レコーダーは【コピーワンス】方式になっていました。  
 今ご家庭に地デジ対応レコーダーを持っていらっしゃる方がいましたら  
 おそらくコピーワンス方式になっているハズです。  
 しかし前述しましたように「コピー失敗したらハイおじゃん」なので「ふざけるな!」と  
 というユーザーの要望があり、オリンピックが近くなって高性能レコーダーをたくさん  
 売りたいメーカーの要望もあって2008年6月20日よりダビング10に対応した放送が  
 開始されるようになりました。  
 先月のWindows XP終了の話ではありませんが、既にも買ってしまった方への対応は  
 なかなか難しく、比較的新しい一部の機種を除いてほとんどの機種はダビング10には  
 対応しない方針のようなので買ってしまった方は「とほほ・・・」という他ありません。  
 これから地デジ対応の高性能レコーダーを買われる方は「これダビング10ですよ?」  
 というだけは聞いておきたいですね! 最新機種なら対応しているハズですけれどね。

連載企画

## “一丁啮”が行く! 第5回: 抵抗勢力

Microsoftが今年1月末日とアナウンスしたWindowsXPの終了時期を、企業ユーザーを中心とするブーイングに遭って、しぶしぶ5ヶ月延長した延命期間がいよいよ今月末にやってきます。しかしながら、いまだに企業ユーザーではWindows Vistaの普及が進まず、Vista導入への“抵抗勢力”として頑張っている感があります。  
 そんな“抵抗勢力”に配慮してか、パソコンメーカーの中にはダウングレードサービス(例えば、XPに戻すためのCDを無償添付したり、手数料を取ってXPをインストールして出荷するなど)を来年1月末日まで延長するところも現れてきました。更に、一部メーカーでは来年2月以降もダウンロードサービスの継続を検討しているところもあるとか。  
 Microsoftと“抵抗勢力”の戦いは、まだまだ続くのかも知れません。

そもそもなぜこのようなことになったのでしょうか。  
 新製品が出るとすぐに飛びつく習性を持った日本人には珍しく慎重派が多数を占めた今回のVista移行。「なぜVistaにしなければならないのか、XPではダメなのか…」ということに尽きるのではないのでしょうか。つまり、使い慣れたXPから使い勝手のわからないVistaに移行する困難さや使えないプリンターが出てくるなどのデメリットを超えてまで、Vistaにしなければならない理由が見あたらない。更にネットワーク環境が進んだオフィスでは、諸々の障害も予想される等々・・・。  
 Vistaにするメリットがある筈なのにそれが見えないが故の抵抗なんでしょう。  
 まさにMicrosoftにとっては“造反組”の抵抗が予想以上に大きかったのではないのでしょうか。  
 そんな状況を見ながら『次なる“刺客”は?』とニヤニヤしているのは私だけでしょうか。

シスポート  
[Sys:port]<sup>®</sup>

ホームページは <http://www.sysport.co.jp> または【シスポート】で検索!!!

# 特集 パソコンの起動が遅い!!

買った直後は1分もしないうちに起動していたパソコンですが、購入してから数年が経過し今や電源を入れてから立ち上がるまで5分少々。少しでも早くならないものなのでしょうか？

起動時間に影響する3大要因は【メモリやCPUの能力】【ハードディスクの回転速度】そして【起動時にアクセスするプログラムの数や、同時に起動するサービスの数】になります。メモリやCPU等の買い換えや、ハードディスク交換は即効性がありますが費用がかかるので別の機会にしまして、今回は【各種設定変更で速度UPを計る】方法のみご紹介いたします。

- ①デフラグをかける
- ②不要な常駐ソフトを減らす

まずはデフラグをかけてみます。詳しく書くとややこしいのでごちゃごちゃになったハードディスクという名前の本棚を整理するようなものだと考えてくださればOKです。※デフラグ開始～完了までは1時間以上かかります。  
【マイコンピュータを右クリック⇒管理⇒記憶域⇒ディスクデフラグツール⇒最適化】  
これでパソコンの起動時間を数秒程度UPさせる事ができると思います。

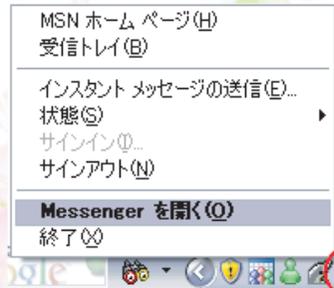
## パソコンの起動手順

- ①BIOSの実行
- ②ハードウェアのドライバ読み出し
- ③OSが使用するサービスの起動
- ④常駐プログラムの立ち上げ

2つ目は左の図のようにパソコンには4つの手順があり、①～③は仕組みを理解した上で設定を変更しないとリスクを伴いますので、今回はその部分はバツサリ割愛して④の部分を変更して速度UPを狙います。そもそも【常駐プログラム】なんて何の事だかサッパリかと思いますが、画面の右下を見ればすぐにわかります。

↓こんなやつです↓

パソコン起動時にデスクトップ画面が表示されているのに秒時計マークが出たままになる原因の大部分がこの右下の常駐プログラムを起動している為です。単純にここのアイコンの数を減らせば少しでも起動速度をUPさせる事ができますので不必要なものがあれば消してしまえばOKな訳です。特に図の右から5つ目のMSNメッセンジャーなどは購入時から勝手に常駐しており、使わない人には完全に不要なプログラムですので削除しても問題ないでしょう。



左図の赤丸で囲ったアイコンを右クリックして開いていただき【ツール⇒オプション⇒設定⇒Windows起動時に～】というチェックボックスを外せば次回から常駐しなくなります。これでだいたい2秒くらいの短縮でしょうか・・・  
どちらにせよ、劇的に改善するには工場出荷状態に戻すしかありませんが、やり方によっては様々な重要なデータまで一掃されてしまいますので、十分に理解していないと大変危険です。おそらく電気屋さんなどに相談すると言われます。「そろそろ買い替えの時期ですね！」と(笑)

※ウイルス対策ソフトは常駐させておいてください。

# わかりやすい! 難しい用語を使わない! T講座 無線LANについてその1

Vol.7

通常パソコンをインターネットに接続する為にはモデムとパソコンをLANケーブルと呼ばれる“太い電話線”みたいなものをパソコンに挿す必要があります。据え置き型のパソコンならそれでいいですが、ノートパソコンだと少し勝手が違ってきます。何処でも使えるのが魅力であるノートパソコンでもインターネットに接続する為には“必ずココ”という場所ではしか使えなかったら、使い勝手悪いですよね。そこで開発されたのが【無線LAN】です。最近はやりのニンテンドーDSやPSPがネット対戦できるのも無線LANのおかげで、“モデムとパソコンをLANケーブルではなく、電波で繋いでしまう”仕組みの名称です。書いてしまうと「何だそれだけか」という話なのですが、設定するとなると慣れていない人にはなかなか難しいもので、苦勞された方も少なくないと思います。1回で書ききれないので今回は第一回として無線LANのしくみや理屈について書きます。

## 機器について

コードレスの電話機という親機にあたる【アクセスポイント(無線LAN機能付きルーター)】とコードレスの電話機という子機にあたる【無線LANアダプタ】の2つが最低限必要です。最近のノートパソコンは無線LANアダプタを内蔵しているモデルもずいぶん増えてきました。また、外付けの無線LANアダプタは付属のCDを用いてドライバをインストールしないとダメです。

## 転送速度について

転送速度ですが間違いない有線より遅くなり、接続は不安定になります。速度54Mbpsと書かれていても数字通りの速度はまず出ませんし、電波である以上どうしても障害物や距離など状況によっては接続自体も不安定になり切断されてしまう事もあります。また理屈上1つのアクセスポイントから台数割分の速度しか出ませんので、50の速度が出ていても無線で2台使えば25の速度しかできませんし、10台なら5しか出ません。

## 規格について

無線LANにはユーザーにとっては不親切この上ない程たくさんの規格がありまして、規格が合わなかったり対応していなかったりすると、どうやっても繋がりません。技術の進化に合わせて良い規格が出て現在に至る都合上、仕方ないのですが、下の表に規格の一覧を書いています。現在のスタンダードは【11g】ですのでアクセスポイント(無線LAN機能付きルーター)でも無線LANアダプタでもとりあえず【11g】に対応しているものを購入しおけば2008年現在は間違いないと思います。この先の時代は、より高速通信が可能になる【11n】が主流になるといわれています。

通信規格	周波数	伝送速度	備考
IEEE 802.11b	2.4GHz	11Mbps	最初に普及した規格。PCに加えて、PDAなどにも対応例が多い。
IEEE 802.11a	5.2GHz	54Mbps	最初の54Mbps級規格。周波数帯が異なる点と機器の価格がネック。
IEEE 802.11g	2.4GHz	54Mbps	速度と価格を両立しており、もっともポピュラーな規格。
IEEE 802.11n	2.4GHz	100Mbps超	今後の主流規格。現在は暫定版。
	5.2GHz	100Mbps超	IEEE 802.11nの後継。現時点では暫定版。

【発信元】シスポート株式会社

〒610-0361 京都府京田辺市河原平田23-16

TEL (0774)-63-1131 FAX (0774)-63-1130

e-mail info@sysport.co.jp

HomePage http://www.sysport.co.jp

ホームページは <http://www.sysport.co.jp> または【シスポート】で検索!!!